

# C A R A M E L B O X



## キャラメルボックス ヒストリー

キャラメルボックス結成前の  
早稲田大学の劇団『てあとろ50』時代から、  
2001年までのキャラメルボックスの  
全芝居と演劇活動を完全網羅!!  
16年目に突入したキャラメルボックスの  
歩んできた道のりが、  
ここにギュッと収められています。

# C . B . 2 0 0 7



THEATER COMPANY CARMELBOX

# キャラメルボックス 結成までの足取り

## 1961

10月8日成井豊、埼玉県飯能市に生まれる。  
同年同月25日加藤昌史、東京都調布市に生まれる。  
同年4月29日大森美紀子、東京都中野区に生まれる。  
というわけで、劇団最年長は大森である。

## 1980

4月 成井豊、早稲田大学第一文学部に入学。同時に早大の演劇サークル「てあとろ50」に入団。6月に、玉川大学に入った大森美紀子も入団。  
てあとろ50は演劇研究会から脱退したメンバーが作った劇団で、結成当初からエンターテインメントを指向していた。  
●その頃の作・演出は、現在「ラッパ屋」主宰の鈴木聡氏。

## 1981

11月  
劇団てあとろ50'公演  
『ねむれ巴里』 明石スタジオ(高円寺)

成井の処女戯曲。演出も初体験。大森も出演。

## 1982

4月  
劇団てあとろ50'公演  
『キャラメルばら一ど』  
東芸劇場(高田馬場)

『不思議なクリスマスのつくりかた』の原型となった作品。チャーリー・ブラウンは大森、ライナスは成井。  
●初日を観て、「この世にこれ以上面白いものはない」と、その日のうちに加藤昌史が入団。

11月  
劇団てあとろ50'公演 クリスマス  
『ろくばんめの聖夜』シアターグリーン(池袋)

5月  
劇団てあとろ50'公演  
『ガラスの弾丸で撃て!』 東芸劇場

ハードボイルド路線で連日超満員。

## 1983

●この公演で成井はてあとろ50'を引退するが、その後の作家が不在だったため脚本だけは書くことになる。

12月  
劇団てあとろ50'公演  
『子の刻キッド』 シアターグリーン

スカッと爽やかな観後感を目指して書かれた学園青春ファンタジー。真柴、初舞台。演出は福本伸一さん(現在「ラッパ屋」)。

## 1984

2月  
劇団てあとろ50'卒業生公演  
『カンガルー通信』 東芸劇場

成井たちの学年の卒業公演。演劇養成所を舞台に、それぞれの人間ドラマを描いた。やはり、役者・成井豊炸裂。

4月  
劇団てあとろ50'公演  
『星に願いを』 東芸劇場

筆を折った作家を作品の主人公が助けにくるという、メタフィクション作品の第1号。演出は福本さん。

12月  
劇団てあとろ50'公演  
『キャラメルばら一ど』改訂再演  
シアターグリーン/銀座みゆき館劇場

メンバーがほとんど入れ替わり、演出も加藤に交替。西川浩幸、初舞台。しかもなんと「スヌービー」役。真柴は「サリー」役。●銀座みゆき館劇場主催「大学演劇フェスティバル」に初出場・初優勝。●現在キャラメルボックスで恒例になっている「気合い入れ」という儀式は、この公演から始まった。

## 1985

5月  
劇団てあとろ50'公演  
『子の刻キッド』改訂再演  
東芸劇場

てあとろ50'での、最後の成井作品。演出は加藤。●西川は「海賊ハック」役、真柴は「ミドリカワヨウコ」役。●この公演で「キャラメルボックス結成。劇団員募集」のチラシをまく。これで引かった現メンバーは、中村恵子、伊藤ひろみ。

# 1985年6月30日 キャラメルボックス 結成!!

てあとろ50'出身の成井豊・加藤昌史・真柴あずきを中心に結成。劇団名は、成井が芝居に開眼した『キャラメルばら一ど』から取った。学生の頃から、てあとろ50'を引退したらこの名前で作るのだ、と成井が言っていたため、何も考えずにそのまま旗揚げしてしまったのだ。今にして思えば、長すぎた気もする。●6月30日は、みんなでキャラメルの箱を持って、高田馬場ビッグボックスの前に集まった。その後も徐々にメンバーを増やして、翌年3月の旗揚げ公演に向けて新たに活動開始。

## 1986

3月  
第1回公演 『地図屋と銀ライオン』 東芸劇場

大航海時代をモチーフに、友達の失明の原因を取り除くために、過去へと遡る少女たちの冒険。●現メンバーで出演していたのは、大森・真柴・中村恵・伊藤・成井・加藤。西川はまだてあとろ50'に在籍中だったのに、前説をやらされた。(観客動員数:722人)

9月  
第2回公演 『左腕のガリバー』 東芸劇場

時間を自由に操れる「砂球時計」と、心の時計が止まってしまった親友を救おうとする少女たちの物語。●西川が客演。以降6年間、客演のまま。1993年3月「四月になれば彼女は」の初日前夜に、突然劇団員になることを表明した。(観客動員数:1,153人)

## 1987

1月  
第3回公演 『百万年ピクニック』 ザ・スズナリ(下北沢)

それぞれ一つずつの魔法を使える六人の魔法使いたちと「まりな」という少女の冒険の物語。

3月  
第4回公演 『百万年ピクニック』 ~東芸劇場閉館記念公演参加~

東芸劇場の閉館記念公演に呼ばれて上演。この公演で、加藤が役者引退。(第3回+第4回観客動員数:1,599人)



★津田匠子が入団。加藤の高校の後輩だった。

9月  
第5回公演 『北風のうしろの国』 新宿シアターモリエール

「自分だけの音楽」を作るために七つの橋を渡る「ゴーシュ」の冒険。テーマ音楽は、なんと加藤の弟が作曲!!(観客動員数:1,616人)

12月  
第6回公演 『子の刻キッド』 新宿 THEATER/TOPS

てあとろ50'時代の作品の全面改訂版。●この頃から客席は超満員状態となる。(観客動員数:1,674人)



5月  
第7回公演 『スケッチブック・ボイジャー』新宿シアターモリエール

少女まんが家「のはら」の描くSFアドベンチャーの世界と、「のはら」の日常とが交錯するメタフィクション。●津田が初日の5日前に倒れ、急速、真柴が代役で出る。驚異的な記憶力を発揮し、ピンチを救った。(観客動員数:2,022人)

8月  
第8回公演 『グッドナイト将軍』新宿シアターモリエール

天使のミスで、交通事故で天国に行ってしまった少女「わたる」が、映画から飛び出した巴御前の幽霊と出会い、不思議な事件に巻き込まれていく。(観客動員数:2,031人)



12月  
第9回公演 1988クリスマス公演 『不思議なクリスマスのつくりかた』新宿シアターモリエール

てあとろ50'時代の『キャラメルばらード』の全面改訂再演。初代チャーリー(大森)と二代目スヌービー(西川)の競演は、内部で話題を呼んだ。●観客動員が前回公演から一挙に千人増え、全ステージ超満員。(観客動員数:3,028人)

# 1988

2月  
第10回公演 ハーフタイムシアターVol.1 『銀河旋律』新宿シアターモリエール

タイムトラベルが日常化した時代。何者かに過去を変えられてしまう「柿本」と「はるか」。それに気付いた柿本は……?! ●「上演時間45分・平日は1日2回、土日は4回公演」という、『ハーフタイムシアター』の第1回。(観客動員数:2,703人)

5月  
第11回公演 『スケッチブック・ボイジャー』(再演) 新宿シアターモリエール→横浜相鉄本多劇場

前年の人気作品を再演。他劇団の主役級を5人客演で呼び、新しい『スケッチブック・ボイジャー』を作る。●準主役の西川が初日の二週間前の稽古中、アキレス腱を切り、急速、「劇企画翔舞」の蒲田哲士さんに代役を頼む。(観客動員数:3,437人)

★6月、「男優オーディション」で、近江谷太郎と上川隆也が入団(受験者7人中3人合格)。そして、石川寛美が、大森美紀子と小学校の同級生だったというコネで入団。坂口理恵は、「衣裳をやりたい」とウソついてこっそり入ってきた。

8月  
第12回公演 『ナツヤスミ語辞典』青山円形劇場

初の青山円形劇場進出。夏休みの学校で起こる、3人の少女と、明るい幽霊の不思議な物語。●音楽は、全曲ニューエイジ・ミュージックの「NARADAレーベル」の楽曲。(観客動員数:3,900人)

12月  
第13回公演 1989クリスマス公演 『サンタクロースが歌ってくれた』新宿シアターモリエール

芥川龍之介と江戸川乱歩が青年時代に出会っていたら、という設定の映画『ハイカラ探偵物語』から、登場人物たちが現代のクリスマスイブに飛び出してくる。●日曜日に3ステージ組んだにも関わらず、超満員となる。キャラメルボックス史上初の「アンコール」の拍手が起こる。(観客動員数:5,734人)

★2月のオーディションで、坂口理恵が役者として正式入団。

4月  
第14回公演 ハーフタイムシアターVol.2  
『広くてすてきな宇宙じゃないか』新宿シアターモリエール

『銀河旋律』の続編とも言える、ハーフタイムシアター第2弾。レイ・ブラッドベリのSF『歌おう! 感電するほどの喜びを』を下敷にしたハートウォーミング・ストーリー。(観客動員数:6,015人)

# 1990

8月  
第15回公演 東京サマーツアー  
『ディアフレンズ,ジェントルハーツ』  
シアターVアカサカ→横浜相鉄本多劇場→新宿シアターモリエール

引退したスラッガー「カゲウラ」のもとへ、未来から息子がやって来る……という半分SFのようなファンタジー。上川、初主演。音楽は、なんと全曲オリジナル。(観客動員数:7,274人)

12月  
第16回公演 1990クリスマスツアー  
『不思議なクリスマスのつくりかた』(再演) 新神戸オリエンタル劇場→シアターアプル(新宿)

1988年に上演した作品の改訂再演。初の中劇場公演、初の関西進出と冒険だらけの公演。しかし、神戸の初日のカーテンコールでは、スタンディング・オベーションが起こり、挨拶に出た大森は舞台上で感激のあまり絶句。それを見ていた成井も客席で嗚咽していた。(観客動員数:神戸1,690人+新宿9,651人=合計11,341人)

# 1990



★1月のオーディションで、岡田さつきが入団。  
★2月 キャラメルボックス製作部を司る、「株式会社ネビュラプロジェクト」設立。現在の「加藤ビル」に移転。

3月  
第17回公演 ハーフタイムシアターVol.3  
『ハックルベリーにさよならを』新宿シアターモリエール

神田川をカヌーで下る少年の、父とその新しい結婚相手、そして母の間で揺れ動く心を描く。●完全ダブルキャストで、合計50ステージ上演。(観客動員数:11,186人)

8月  
第18回公演 1991サマーツアー 『ナツヤスミ語辞典』(再演)  
シアターサンモール(新宿)→近鉄アート館(大阪)→新神戸オリエンタル劇場→青山円形劇場

1989年に青山円形劇場で上演したものを再演。観客動員の増加のペースが早すぎて、同じ地域で二ヶ所やらないと間に合わない事態に。(観客動員数:新宿2,567人+大阪1,221人+神戸1,698人+青山8,564人=合計14,050人)



★10月 青山演劇フェスティバル参加  
加藤昌史プロデュース公演『天国から北へ3キロ』 中村文化小劇場(名古屋)→青山円形劇場

青山円形劇場からの依頼で、加藤が初めて「プロデュース公演」を行う。脚本は、東京サンシャインボーイズの三谷幸喜氏、演出は劇団ショーマの高橋いさを氏。出演は、キャラメルボックスからは西川と大森。

12月  
第19回公演 1991クリスマスツアー  
『ブリザード・ミュージック』  
スペース・ゼロ(新宿)→新神戸オリエンタル劇場→シアターアプル

宮沢賢治の未発表作品を上演するために、いきなり新聞広告を出してメンバーを集め、劇場まで借りてしまう、「清吉」老人。最初は反対していた家族や、集まった若い役者とともに一本の舞台を創りあげていくまでを描いた、初のファンシチュエーションのストレートプレイ。(観客動員数:ゼロ4,080人+神戸2,900人+アプル9,241人=合計16,221人)



# 1992

4月

第20回公演 ハーフタイムシアター・ダブルフィーチャーVol.1

『銀河旋律』『広くてすてきな宇宙じゃないか』(ともに再演)

近鉄小劇場(大阪)→シアターアプル

第1回・第2回のハーフタイムシアターを、二本同時に、しかも近小とアプルでやってしまえ、という無謀企画。特大のビデオプロジェクター、ムービングライト、フライングなど、もう、やりたい放題。結果は、超満員超大赤字。(2作品合計観客動員数:大阪4,168人+新宿17,215人=21,383人)



★5月、それまで製作部で修行していた岡田達也が、請れてオーディションで入団。

8月

第21回公演 1992サマーツアー 『カレッジ・オブ・ザ・ウィンド』

新神戸オリエンタル劇場→紀伊國屋ホール(新宿)

●小劇場劇団憧れの紀伊國屋ホール初公演。神戸ではスタンディング・オベーション、東京は連日超満員となる。(観客動員数:神戸2,978人+新宿15,272人=合計18,250人)

10月

アナザーフェイスVol.1 『また逢おうと竜馬は言った』聖蹟桜ヶ丘アウラホール

劇団シヨーマから演出に高橋いさを氏、客演に川原和久さんら3名を呼んで、「キャラメルボックス対シヨーマ」という「異文化接触」をはかる。(観客動員数:8,073人)

12月

第22回公演 1992クリスマスツアー 『サンタクロースが歌ってくれた』(再演)

パナソニック・グローブ座(新大久保)→近鉄劇場(大阪)

満を持しての自信作再演。が、東京では上演中に停電、大阪ではまるまる1シーン、スピーカーから謎の轟音が出る、というトラブルが続発。(観客動員数:東京13,676人+大阪3,011人=合計16,687人)

★12月 大阪メルパルクホール、東京グローブ座でビデオライブ開催『また逢おうと竜馬は言った』'92

# 1993

★1月のオーディションで、篠田剛、菅野良一が入団。



3~4月

第23回公演 アコースティックシアターVol.1 『四月になれば彼女は』

フェスティバル・リサイタルホール(大阪)→名古屋テレビアホール→シアターアプル

役者の感情をじっくり観ていただこう、という「アコースティックシアター」を企画。しかも、オリジナルメンバーの真栄が、成井と共同で初の脚本執筆。(観客動員数:大阪2,688人+名古屋1,923人+新宿12,842人=合計17,453人)

7~8月

第24回公演 1993サマーツアー 『グッドナイト将軍』(再演)

シアターアプル→新神戸オリエンタル劇場→紀伊國屋ホール

5年前の作品の再演。津田の「巴御前」が絶品のと評判。(観客動員数:アプル4,129人+神戸4,284人+紀伊國屋12,369人=20,782人)

●紀伊國屋ホールで第1回トークショー開催。

★「キャラメルボックス・サポーターズ・クラブ」を結成。

「もっともっとキャラメルボックスをがんばらせよう」とプロデューサー自らが旗を作って会長になる。実は、西川や岡田達也が浦和レッドダイヤモンズのサポーターをやっていたのがうらやましかったらしい。

# 1993

10月

アナザーフェイスVol.2 アナザーフェイスダブルヴィジョン

キャラメルボックスの無謀企画が極まった。ハーフタイムシアターならまだしも、成井作品を高橋いさを氏が演出する方を「い組」、高橋作品を成井が演出する方を「ゆ組」と名付け、2時間モノを2本同時に、しかも別な劇場でやった。

い組=作・成井豊■演出・高橋いさを 『嵐になるまで待って』聖蹟桜ヶ丘アウラホール

原作である、成井が「芝居にできない物語を」と書き下ろした小説『あたしの嫌いな私の声』(もう、絶版である)を読んだ加藤が「芝居にしましょう」と言い出して戯曲化した作品。(観客動員数:7,735人)

ゆ組=作・高橋いさを■脚本・成井豊+真柴あずき■演出・成井豊 『ジャングル・ジャンクション』

俳優座劇場

原作は劇団シヨーマの名作『ウォルター・ミティにさよなら』。ラッパ屋からの客演・福本伸一さんがやった「オオニタ」を除く全ての役を、女優だけで演じ切った。(観客動員数:5,510人)



12月

第25回公演 1993クリスマスツアー 『キャンドルは燃えているか』

新神戸オリエンタル劇場→シアターアプル→ニューピアホール(浜松町)

●台本完成が仕込みの5日前という、あまりありがたない新記録が樹立された。スタッフ・キャストに配られた台本のラストシーンの後に、成井のお詫び文が印刷されていた。(観客動員数:神戸4,540人+アプル5,308人+ニューピア9,540人=19,388人)

# 1994

★2月 東京演劇フェア'94参加

脚本・成井豊 製作・ネビュラプロジェクト『シンデレラ迷宮』東京芸術劇場小ホール1

少女小説界の大家・氷室冴子氏の代表作を、成井脚本でミュージカル化。音楽は小川美潮氏の全曲オリジナル、振付は川崎悦子氏、という豪華メンバーにも関わらず、たったの7ステージ。もったいなさすぎる、ということで直後に再演が決定。

3~4月

第26回公演 アコースティックシアターVol.2 『アローン・アゲイン』近鉄小劇場→テレビアホール→シアターアプル

●劇中音楽の全てをスパイラルライフが提供。●びあに載ったこの公演の告知記事写真を見たNHKの方が、リハーサルを観た後に上川の中国行きを決めた。(観客動員数:大阪4,042人+名古屋2,293人+新宿14,239人=20,574人)

★4月~5月 ニッポン放送プロデュース『シンデレラ迷宮』(再演) ヤクルトホール(新橋)

急速、上川が主人公「リネ」を助ける謎の男「ロット・コッド」をやることに。上川は、『アローン〜』の本番中の昼間、稽古に参加。初演を凌ぐパワーの作品になったが、ゴールデンウィークと重なって客席はガラガラ。

★5月 キャラメルボックスと行くJR東日本シアターエクスプレス

『やまびこ65号、応答せよ!』

世界初「新幹線車内公演」に挑戦。構成・演出は高橋いさを氏。高橋氏が目的地の盛岡まで取材に行ったり、客演の粟根まことさん(劇団☆新感線)が走る新幹線の中でこっそりレーパーの実験をしたりと、気の遠くなるような下準備が行われた。●読売新聞の夕刊トップ掲載を皮切りに、各TV局から取材が殺到。アメリカのABC放送まで来た。●2回で1,200人動員。

7~8月

第27回公演 1994サマーツアー 『ディアフレンズ,ジェントルハーツ』(再演)

シアターアプル→新神戸オリエンタル劇場→テレビアホール

4年前の作品を大幅に改訂して再演。●江川卓さんの球を打つために戦う男の話だったのだが、なんと江川さん本人が観に来てくださったって、一同大慌て。でも、江川さんは喜んでくださった。(観客動員数:新宿15,187人+神戸4,491人+名古屋2,442人=22,120人)

9~10月

アナザーフェイスVol.3 『俺たちは志士じゃない』シアター・ドラマシティ(大阪)→聖蹟桜ヶ丘アウラホール

成井と真柴の共同脚本による、初の本格時代劇。●当時、急成長していた「惑星ビスタチオ(解散)」と組んで、読売テレビ主催の「OSAKA感劇祭'94」に参加。音楽はTUBEの春畑道哉氏が全曲提供。(観客動員数:大阪6,667人+東京6,983人=13,650人)

1994

11~1月

第28回公演 1994クリスマスツアー+1995ニューイヤーツアー 『ブリザード・ミュージック』(再演) 新神戸オリエンタル劇場→シアターアプル→サンシャイン劇場(池袋)→札幌市教育文化会館→盛岡劇場→仙台市青年文化センター→シアターホール

初日の一週間前の通し稽古で、岡田さつきが足の甲を骨折。急遽、当時見習い中の関根麻美がピンチヒッターとして抜擢される。「全治2カ月」と言われた岡田さつきも根性で治し、北ツアーから復帰した。(観客動員数:神戸4,657人+東京14,548人+札幌2,506人+盛岡750人+仙台1,174人=23,635人)



★2月のオーディションで、前田綾・細見大輔・大内厚雄が入団。

5~6月

第29回公演 10周年記念2本連続公演 『スケッチブック・ボイジャー』(再々演)/『ヒトミ』(アコースティックシアターVol.3) シアターアプル→近鉄劇場

10周年だから無茶をやるということ、成井は両方の脚本・演出を担当、西川・大森を初めとする6人の役者は両方に出演、片方にしか出ていない役者ももう一方の裏方で活躍、と文字通り総力戦となった。(観客動員数:東京25,037人+大阪7,582人=32,619人)●近鉄小劇場で第2回トークショー開催。

★7~10月 メディアシティ静岡でビデオライブ開催

『銀河旋律』92 『また逢おうと竜馬は言った』92 『広くてすてきな宇宙じゃないか』92

8~9月

第30回公演 10周年記念拡大サマーツアー 『また逢おうと竜馬は言った』(再演) 新神戸オリエンタル劇場→ももちパレス(福岡)→高知県民文化ホール・グリーンホール→シアターアプル

3年前のアナザーフェイスで上演した作品を、キャラメルボックスだけで再演。初演で主役の「オカモト」を演じた上川が「竜馬」を演じ、ほぼ新作とも呼びたいほど趣の違う仕上がりがなった。(観客動員数:神戸5,885人+福岡1,306人+高知617人+東京14,882人=22,690人)●新神戸オリエンタル劇場・シアターアプルで第3回トークショー開催。



11~12月

第31回公演 1995クリスマスツアー 『レインディア・エクスプレス』 テレビアホール→新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

幕末の函館五稜郭から脱走して嵐に巻き込まれ、不老不死になってしまった「雷太」。年を取らない彼と、太平洋戦争の頃に知り合った「ナオ」。「何かあったら、必ず助けに来る」という約束を残していなくなった「雷太」が、50年を経て、「ナオ」の孫「ユカリ」の前に現れる。(観客動員数:名古屋2,511人+神戸5,917人+東京15,095人=23,523人)

4~5月

第32回公演 1996ハーフタイムシアター2本立て公演 『ハックルベリーにさよならを』(再演) 『TWO』 本多劇場(下北沢)→近鉄小劇場

滴を持してのハーフタイムシアター2本立て、ふたたび。合計74ステージ全てに出演した西川と前説の加藤には拍手を送りたい。●『ハックルベリー〜』で初めて本物の水を使う。(観客動員数:東京22,633人+大阪8,425人=31,058人)

1996

1996

★5月 国分寺Lホールでビデオライブ開催

『北風のうしろの国』87 『子の刻キッド』87 『銀河旋律』89 『広くてすてきな宇宙じゃないか』90 『俺たちは志士じゃない』94

★6月 キャラメルボックスと行くJR東日本シアターエクスプレス

『やまびこ67号、応答せよ!』

2年前に初挑戦して、あまりの大変さに「もうやりたくない」と言っていたこの企画。JR東日本さんのアンコールに根負けして、さらにグレードアップして再演。宮澤賢治生誕百周年も重なって、NHK・BSで『走れ! 宮澤賢治号』という結構おまぬけなタイトルで全国放送される。●3回で1,800人動員。



★7月 仙台国際センターでビデオライブ開催 『俺たちは志士じゃない』94

8~9月

第33回公演 1996サマーツアー 『風を継ぐ者』ももちパレス→新神戸オリエンタル劇場→シアターアプル

『また逢おうと竜馬は言った』や『俺たちは志士じゃない』の公演で、「キャラメルボックスは新選組が嫌いなんですか」とアンケートに書かれてきたが、この作品を観てもらえれば、そうではないことがわかる。●音楽の全てを、ZABADAKが提供。(観客動員数:福岡11,586人+神戸6,778人+東京20,528人=28,892人)

8月

第11回こどもの城・キリン・ファミリー劇場 『ケンジ先生』(ファンタジックシアターVol.1) こどもの城 青山円形劇場

「いつかはやりたい」と成井が温めていた、「こどもと、昔こどもだったおとなたちのための舞台」が意外に早く実現した。音楽は全てZABADAK。(観客動員数:4,580人)

★10月 聖蹟桜ヶ丘アウラホールでビデオライブ開催

『ナツヤスミ語辞典』89 『サンタクロースが歌ってくれた』89 『ディアーフレンズ、ジェントルハーツ』90 『ハックルベリーにさよならを』91 『また逢おうと竜馬は言った』92 『嵐になるまで待って』93 『俺たちは志士じゃない』94

11~12月

第34回公演 1996クリスマスツアー 『不思議なクリスマスのつくりかた』(再々演) メルバルクホール福岡→新神戸オリエンタル劇場→赤坂BLITZ

キャラメルボックスでは3度目の上演となったこの作品。「今、お客さんに見てもらいたい役者がたくさんいる」から、REDとGREENの2チームに分かれてお届けした。ただし、西川と大森と真柴は両チームに出演。(観客動員数:福岡1,726人+神戸7,063人+東京18,677人=27,466人)●福岡西新パレスホールで第4回トークショー開催。

★2月のオーディションで、岡内美喜子・中村亮子が入団。

3~4月

第35回公演 1997アコースティックシアターVol.4 『あなたが地球にいた頃』

サンシャイン劇場→メルバルクホール福岡→アートピア・ホール(名古屋)→シアター・ドラマシティ

2年ぶりのアコースティックシアター。●ラストシーンで、バックに流れた曲は、若手デュオ・TWO of USの書き下ろし。(観客動員数:東京20,004人+福岡1,777人+名古屋2,824人+大阪5,582人=30,187人)

★5月 聖蹟桜ヶ丘アウラホールでビデオライブ開催

『カレッジ・オブ・ザ・ウィンド』92 『また逢おうと竜馬は言った』92 『四月になれば彼女は』93 『グッドナイト將軍』93 『嵐になるまで待って』93 『ジャングル・ジャンクション』93 『キャンドルは燃えているか』93 『ディアーフレンズ、ジェントルハーツ』94 『俺たちは志士じゃない』94



1997

# 1997

7~8月

第36回公演 1997サマーツアー 『嵐になるまで待って』(再演)

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場→札幌市教育文化会館大ホール→仙台市民会館小ホール

1993年にアナザーフェイスとして上演した作品を、大幅に改訂。●本物のガラスを毎ステージ割ってみたり、NHKの衛星放送で手話解説をなさっている妹尾映美子先生にワークショップをしていただいたりと、何かと挑戦することの多い夏だった。●東京公演本番中に、岡田達也が肋骨を骨折。激痛をこらえて、全ステージ完走。(観客動員数:神戸7,356人+東京19,361人+札幌2,652人+仙台1,395人=30,764人)●新神戸オリエンタル劇場で行われたCSC関西大集会で、バックステージツアーを開催。

9月

アナザーフェイスVol.4 『ブラック・フラッグ・ブルーズ』 聖蹟桜ヶ丘アウラホール

3年ぶりにして、4度目のアナザーフェイス。今回は、人気急上昇中の劇団「TEAM 発砲・B・ZIN」から、5人のゲストをお迎えて、キャラメルボックス初の本格SFに挑戦。成井と真柴が、ずっと前からやりたいやりたいと騒いでいたSF小説『歌う船』をベースに、笑って泣ける、スピーディな舞台を目指した。(観客動員数9,027人)

11~12月

第37回公演 1997クリスマスツアー 『サンタクロースが歌ってくれた』(再々演)

メルパルクホール福岡→新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

本当は新作『さよならノーチラス号』を上演するはずだったのだが、成井の体調不良のため、急遽、演目を変更。たった3週間であつた芝居を作るのは初めての経験。(観客動員数:福岡3,244人+神戸9,578人+東京25,527人=38,349人)●神戸アートビレッジセンターで第5回トークショー開催。

# 1998

★2月のオーディションで、小川江利子が入団。

3~4月

第38回公演 1998スプリングツアー 『俺たちは志士じゃない』(再演)

シアター・ドラマシティ→福岡市民会館→シアターアプル

1994年にアナザーフェイスで上演した作品を、またまたキャラメルメンバーだけで再演。●本番2週間前に、「かえで」の役をやるはずだった坂口が、A型肝炎に感染していることが判明。「美咲」をやる予定だった岡田さつきを「かえで」に、小道具担当で出演予定のなかった中村亮子を「美咲」に、と急遽キャストチェンジを行なった。(観客動員数:大阪7,954人+福岡2,497人+東京22,730人=33,181人)

★5月 聖蹟桜ヶ丘アウラホールでビデオライブ開催

『不思議なクリスマスのつくりかた』'90 『ナツヤスミ語辞典』'91 『天国から北へ3キロ』'91 『ブリザード・ミュージック』'91 『銀河旋律』『広くてすてきな宇宙じゃないか』'92 『風を継ぐ者』'96 『嵐になるまで待って』'97細見バージョン

7~8月

第39回公演 1998サマーツアー 『さよならノーチラス号』 新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

前年の冬にやる予定だった作品を、成井が構想も新たに書き上げた。●小学6年の「タケシ」は、父親の事業が失敗して家族が逃げたをされたため、一人で伯母さんの家に預けられている。両親と兄が住んでいるのは、古びた自動車整備工場の2階。1階には「勇也」と、ゴールデンレトリバーの「サブリナ」がいる。そして夏休みの間だけ、タケシもその工場の2階で生活することになる。(観客動員数:神戸10,172人+東京30,739人=40,911人)●サンシャイン劇場で第6回トークショー開催。

8~9月

ファンタジックシアターVol.2 『ケンジ先生』(再演)

世田谷パブリックシアター→新神戸オリエンタル劇場

2年前の初演では東京でしかやらなかったのが、今回は神戸でも上演した。●初日寸前に客演の山田さんが「ハシカ」にかかり、感染者がいる可能性98%、公演中止間違いないし、という状況に。しかし、主治医の杉村先生のご尽力とみんなの気合いで感染者ゼロ!!奇跡でした。(観客動員数:東京8,730人+神戸3,565人=12,295人)



# 1998

11~12月

第40回公演 1998アコースティックシアターVol.5 『マイ・ベル』

新潟市民芸術文化会館→新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

アコースティックシアター第5弾。新潟市民芸術文化会館の「こけら落とし」に呼んでいただく、という大光栄な公演となった。●「冴子(坂口)」は離婚を機にもう一度、女優に復帰することを決意。娘の「みちる(中村亮子)」はIQ198の天才少女。冴子はオーディションに落ちてばかりだったが、なんとみちるが「舞台に出ないか」とスカウトされてしまう。(観客動員数:新潟3,013人+神戸7,770人+東京23,576人=34,359人)

# 1999

★2月のオーディションで、藤岡宏美・青山千洋・佐藤仁志が入団。

3~4月

第41回公演 ハーフタイムシアター・ダブルフィーチャーVol.3

『銀河旋律』(再々演) 『広くてすてきな宇宙じゃないか』(再々演)

シアターアプル→シアター・ドラマシティ→もちもちパレス

もういいじゃないか、と誰かが言ってもよさそうなのに、やっぱりやってしまったハーフタイム2本立て。1992年以来、実に7年ぶりの再々演となる今回は、西川・大森・坂口が両方出演。怒涛の78ステージを見事に乗り切った。(観客動員数:東京40,587人+大阪13,884人+福岡3,722人=58,193人)



★5月 聖蹟桜ヶ丘アウラホールでビデオライブ開催

『ヒトミ』'95 『キャンドルは燃えているか』'93 『カレッジ・オブ・ザ・ウィンド』'92 『スケッチブック・ポイジャー』'95 『サンタクロースが歌ってくれた』'92 『アローン・アゲイン』'94 『ジャングル・ジャンクション』'93

7~8月

第42回公演 1999サマーツアー 『TRUTH』

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

幕末時代劇の第3弾。山本周五郎の短編『失竊記』(新潮文庫『日日平安』所収)を下敷きに、成井と真柴が骨太な物語を作り上げた。●選曲担当の加藤の夢だった、「全曲オリジナル」による公演が遂に実現。若手アーティスト・河野圭さんがプロデュースと作曲を担当。●空前絶後の大好評で、連日超満員。東京公演千秋楽では、急遽サンシャイン劇場の隣のイベントホールを借りて特大プロジェクターを設置し、前代未聞の「ライブ中継」を開催。そっちも、400人以上のお客さんと超満員の大騒ぎとなった。(観客動員数:神戸10,920人+東京33,713人=44,633人) ※公演中、新神戸オリエンタル劇場、サンシャイン劇場で、『サマーツアー・ビデオライブ』開催。

9月

ファンタジックシアターVol.3 『怪傑三太丸』 東京グローブ座(新大久保)→新神戸オリエンタル劇場

ファンタジックシアター第3弾。キャラメルが初期の頃にやっていた、「冒険モノ」のテイストがいっぱい詰まった作品。●成井がZABADAKの全てのCDを聴き込み、6曲を厳選して歌詞を付けた。更に2曲、吉良さんに書き下ろしていただいた。●去年の『ケンジ先生』に引き続き、田尻さんを始めとするアクションチームが勢揃い。加えて久松信美さんもゲストに迎え、超強力なチームが出来上がった。(観客動員数:東京9,271人+神戸5,041人=14,312人)

11~12月

第43回公演 1999クリスマスツアー 『キャンドルは燃えているか』(再演)

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

初演と同じ役なのは西川と真柴のみ。一年ぶりに田嶋ミラノさんをゲストに迎えて、配役を一新しての舞台となった。●この公演で、加藤昌史が1992年以来ずっと夢見てきていた「クロズド・サーキット」がついに実現。東京公演の模様を衛星経由で新神戸オリエンタル劇場に生中継し、両方で盛り上がった。(観客動員数:神戸8,728人+東京26,517人+クロズド・サーキット神戸476人=35,721人)

# 2000

★2月のオーディションで、温井摩耶・畑中智行が入団。

## 3~4月

第44回公演 2000スプリングツアー 『MIRAGE』 サンシャイン劇場→ももちパレス→近鉄劇場

結成15周年の幕開けは、真栗と成井の共同執筆による新作。自分のためではなく、「誰か」のためにがんばる主人公を描き、さらに新しい世界を創り上げた。●10年越しでラブコールを送ってきた劇団☆新感線の栗根まことさんが、ついにゲストに。真摯な姿勢と多くのギャグで(?)キャラメルメンバーを巻き込み、なおかつ作品に深みを与えてくれた。●東京公演では、Apple社の全面協力を得て「31ステージインターネット生中継」を実現。流行になりかかっていた「インターネット中継」を、なんとこんな大量の回数やり続けた劇団は、当然世界初。そしてこの為、西川は寝ぼけるシーンで日替わりのネタを用意するはめに。その模様を楽しみたい方は、手作りビデオ『五里夢中』をぜひ見てください!! (観客動員数:東京25,824人+福岡2,167人+大阪8,544人=36,535人)



## ★5月 聖蹟桜ヶ丘アウルホールでビデオライブ開催

『ケンジ先生』'96 『ブリザード・ミュージック』'94 『カレッジ・オブ・ザ・ウィンド』'92 『四月になれば彼女は』'93 『また逢おうと竜馬は言った』'92 『また逢おうと竜馬は言った』'95 『TRUTH~千秋楽バージョン~』'99

## 7~9月

第45回公演 劇団結成15周年記念2本連続公演

## 『カレッジ・オブ・ザ・ウィンド』(再演) 新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

結成15周年記念2本連続公演第1弾。圧倒的支持を得ているが、実に8年も上演しなかったのは、主人公「ほしみ」役を演じられる女優を待ち続けていたから。その主役に抜擢されたのが入団3年目の小川江利子。中堅の役者たちが『また逢おうと〜』に出演するので、ベテラン勢と若手中心のキャストになった。●ゲストに迎えた劇団M.O.P.の木下政治さんは、劇中で自作のボエム「ちょんまげ」を披露し、お客さんのハートを鷲掴みにした。(観客動員数:神戸9,179人+東京28,327人+クロズド・サーキット福岡306人+クロズド・サーキット東京276人=38,088人)

## 『また逢おうと竜馬は言った』(再々演) シアターアプル→新神戸オリエンタル劇場

結成15周年記念2本連続公演第2弾。こちらは10万馬券とも100万馬券とも言われた南塚康弘の初主役で挑む再々演。再演と同じ役をやるのは篠田ひとりというほぼ一新されたキャスティング。篠田と坂口は『カレッジ〜』に引き続き両方出演。●「南塚に合った曲が欲しい!!」と選曲の加藤がSCUDELIA ELECTROの石田小吉さんにエンディング曲を発注。できあがった『君のいた夏へ』を流すと、これまでとは、まったくテイストの違うラストシーンになった。●ゲストには、毎年出演してもらっている田嶋ミラノさん、クチーナ・ミラノ常連の首藤健祐さん、時代劇では殺陣を指導してもらっている佐藤雅樹さんの3人を迎えた。(観客動員数:東京18,915人+神戸6,957人=25,872人)

## 11~12月

第46回公演 2000クリスマスツアー 『クローズ・ユア・アイズ』 新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

関東大震災後の東京を舞台に、「死」にまっこうから取り組んだ、成井豊単独書き下ろしクリスマス作品。しかし、西川は加藤健一事務所に客演、上川は主役に抜擢されたお正月ドラマ『宮本武蔵』の撮影、近江谷は自らのプロデュース公演のために出られない。本公演にこの3人が同時に出演しなかったことはほとんど例がありません。つまり男優陣のトップは主演の岡田達也。本人自ら心配していたが、そんな大きなプレッシャーを跳ね返し、約2時間出ずっぱりという精神的にも肉体的にも厳しい役をやり遂げた。大正モノらしく芥川龍之介も登場。細見大輔が愛嬌のある新たな芥川像を作り上げ、「芥川と言えば西川浩幸」のイメージを払拭した。●出演者20人(劇団員19人+ゲスト・久松信美さん)というのは劇団史上最多!! しかも、ダブルキャストのメンバー全員が出演する形も初めて。15周年を締めくくりに相応しい、まさに総力戦で挑んだ公演だった。●音楽は『TRUTH』に続いて2度目の完全オリジナルに挑戦。今ではキャラメルサウンドを代表する竹中三佳さんと出会ったのもこの公演。(観客動員数:神戸8,511人+東京28,016人+クロズド・サーキット神戸489人=37,016人)



# 2001

★2月のオーディションで、大木初枝・大浦理美恵・三浦剛が入団。

## 2~5月

第47回公演 2001スプリングツアー・ダブルバージョン

## 『エトランゼ』シアターアプル→新神戸オリエンタル劇場



21世紀の幕開けは、懲りもせずにもたまたま2本連続公演!! しかも、クリスマス公演から立て続けの新作。●稽古開始の日に成井が「今回はいつもの手を使いません」と宣言。語り手に手紙を読ませて解説するなど、キャラメルボックスがいつもやっている演出法を禁じ手とした結果、シーンチェンジがとて印象的な作りとなった。●8年間アシスタントを務めていたスタジオを辞め、フリーのカメラマンとして活動を開始した「ななえ(坂口)」のところに、姉「かずみ(中村恵子)」の子供たちが訪ねてくる。高校3年生の「里奈(岡内)」とその弟・「開(藤岡)」は父が家の階段から落ちて入院したと言う。春休みの間だけという条件付きで、ななえと子供たちの共同生活が始まった。●予想以上の動員の伸びに対応できず、前売即日売というあってはならない事態に、急遽、追加公演を設けた。音楽は当然のように完全オリジナル。準備期間が短い上に新作、という悪条件ながら数々の名曲が生まれた。(観客動員数:神戸6,270人+東京16,882人=23,152人)

## 『風を継ぐ者』(再演) サンシャイン劇場→メルパルクホール福岡→シアター・ドラマシティ

スプリングツアー・ダブルバージョン第2弾は、1996年に初演された大人気作品が登場!! 激動の幕末をまっすぐに駆け抜けた新選組隊士たちの物語。菅野演じる沖田総司と岡田さつきのつぐみのコンビは健在。しかし、この二人以外の配役は初演から一新された。特筆すべきは、語り手としてしゃべり続けた岡田達也と初主演を役柄の迅助そのままに走り抜けた細見大輔の驚異的な持久力。細見はかつて「ガラスのノド」と呼ばれた汚名を返上した。●西川と大内はもう一本の『エトランゼ』と両方出演。ゲストには田嶋ミラノさんと首藤健祐さんを迎えた。●音楽は初演同様全曲ZABADAKが提供。なんと、初演時絶賛されたラストシーンにかかる名曲『Tears』を変更し、新曲『駆け抜ける風のように』を書き下ろして下さった。この曲をひっさげてCDショップでスタイベントを展開し、サウンドトラックも好セールスを記録した。(観客動員数:東京29,653人+福岡2,927人+大阪10,803人=43,383人)



## 7~9月

第48回公演 2001サマーツアー 『ミスター・ムーンライト<月光旅人>』

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

『TRUTH』以来、実に2年ぶりの出演となる上川隆也。そして、テレビでは決して見られない役柄での主演。期待するなどという方がムリなのだが、劇団史上最多ステージ数を用意したにも関わらず、あつという間に前売即日売。東京公演は全ステージ、インターネット生中継、千秋楽はクロズド・サーキットと、これまで準備してきたシステムをフル活用し盤石の態勢で臨んだ。●図書館で司書をしている「鹿島(上川)」は作家志望。徹夜で小説を執筆したのが原因で朝から体調がすぐれず早退することに。が、眠りについた鹿島は知らぬ間に大学時代の友人・「結城(大内)」宅に上がり込む。なぜか、言葉も女性らしくなっている。驚く結城の妻・「都(岡田さつき)」に、自分は半年前に交通事故で亡くなった結城の妹・「かずみ」だと告げる。結城は事故当時、車を運転していた「古河(佐藤)」に復讐しようとしていた。それを止めるために、かずみの霊は鹿島の身体を借りたのだ。満月の夜、鹿島はかずみの想いを抱いて走り出した。●神戸公演の観客動員数は劇団記録を塗り替え、トータルでも過去最高の『TRUTH』とほとんど変わらない数字を記録した。当日券で入場できない人がいる場合に備えて、初日に収録したビデオを1週間制作し販売した。●オープニングのダンス曲はSCUDELIA ELECTRO、ラストの曲は竹中三佳さんというキャラメルらしい布陣。そこに、初参加となる和佐田京子さんが全20曲中8曲も登場。青白い月が浮かび、和佐田さんの透明な歌声が月明かりのように降り注ぐ風景はとて美しく幻想的だった。(観客動員数:神戸11,284人+東京32,003人+クロズド・サーキット神戸598人=43,885人)



## 11~12月

第49回公演 2001クリスマスツアー 『ブリザード・ミュージック』(再々演)

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館→新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

初演からは10年ぶり、再演からも7年ぶり、という再々演となった今回は、音楽を全曲、宮沢賢治に造詣の深いZABADAKが担当!! セットも衣裳もなにもかも新しくなった21世紀版の『ブリザード・ミュージック』がまもなく完成。主人公の清吉老人は、なんと時の流れに合わせて今回は90歳!! 当初は初演通りの80歳の設定でやるうとしたら、岡内美喜子の「うちのおじいちゃん」は90歳過ぎてもとって元気ですよ、という一言で歳を取らせることに決定!! キャラメルボックス史上最高齢の役で、西川浩幸がどうボケるのか?! 乞うご期待!!

# キャラメルボックス2002 公演スケジュール

さあ、2002年!! 結成17周年を迎えます。新作2本と好評だった作品の再演2本で来年も計4本。まあ、本数だけで言えば、いつもと一緒なんですけど、2002年の方がさらにパワーアップしてること間違いなし。あ、どういう根拠なんだと責められると困るので、ちょっとだけ口を滑らすと、「おお、ついにあの人が主役!!」「まさか、あの人があの役を!!」「ええー!! クリスマス公演なのにい〜」と、劇団員ですら驚きの連続、驚嘆の嵐!! そして、果たしてあの人は帰ってくるのか?! はたまたあの人は復活するのか?! 外部で活躍する役者が多い年になりそうですが、劇団はどっしり構えて、すでに20周年に向けて走り出しています。まだまだ挑戦を続けるキャラメルボックスの2002年、目が離せませんぞっ!!

## 2002

### 2~4月

#### 第50回公演 2002スプリングツアー 成井豊 『アンフォゲッタブル』

シアターアプル→福岡市民会館→近鉄劇場

「ちょっと静かな新作が続いたよね」と語る成井豊。上川隆也、近江谷太朗、岡田達也らを客演で、虫の研究で菅野良一をそれぞれ欠き、それでもキャラメルボックスは新作に挑戦!! ありとあらゆる困難を乗り越えてきた2000年の経験があるから、どこまででもいけるっ!!

### 5~6月

#### 第51回公演 2002アコースティックシアターVol.6 成井豊+真柴あずき 『四月になれば彼女は』(再演)

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

1993年春に上演されて以来、再演希望が果てしなく多い「アコースティックシアター」の第一弾作品が、ついに、ようやく、満を持して登場!! 「あの役とあの役をやる女優がない」というのが再演できなかった最大の原因だったのが、ついに、やっと、あいつとあいつにやらせれば素敵になりそう、ということになったのです!! そして、やはり音楽は全曲入れ替え!! 「ええええっ?!」という悲鳴が劇団内からも上がるものの、きっとすごいことになるはずっ!! 乞うご期待!!

### 7~9月

#### 第52回公演 2002サマーツアー 成井豊 『嵐になるまで待って』(再々演)

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

でっ出たあああああっ!! 1997年にやったばかりの、この作品をあえて今、再々演!! ここ数年、キャラメルボックスがバリエーション化に務めてきたのはこの作品を上演するためだったのだっ!! 明樹由佳が退団してしまったのに、「あの役」は誰がやるのかっ?!……ふっふっふっふっふっ……!!

### 11~12月

#### 第53回公演 2002クリスマスツアー 成井豊+真柴あずき 『新作』

新神戸オリエンタル劇場→サンシャイン劇場

「そろそろクリスマス公演でクリスマスものじゃないヤツをやってもいいかな?」と成井豊。なんと、幕末モノを予定っ!! 新選組も竜馬もやっちゃって、さあ、あとはどの辺の人の物語になるんだっ?! あっ、もしかして、徳川家っ?! はたまた、町人モノっ?! あっ!! 黒船に乗ってきた人たちの話っ?! あ——気になるっ!! しかし、初日までストーリーは秘密っ!! ドキドキしながら待っててくださいっ!!